
基本目的V

学 び

GO TO
THE STRATEGIC PLAN CITY OF TATEBAYASHI
2020



施策目的 1 3

生涯にわたって学び続けることができるまちになる

人々の生涯を通じた学びが保障され、
その成果があらゆる場面で生かされる
まちをめざします




現状と分析

- 学習活動が活発化し、ニーズが多様化する一方、地域や生活に関する現代的課題を解決するための生涯学習に取り組むことが求められています。
- いつでもどこでも自分に適した方法や内容で生涯学習に取り組むことができるようにするため、学習機会の拡充や学習情報提供体制、学習相談体制の充実が必要なほか、学んだ成果をボランティア活動などに生かすことのできる体制づくりを進める必要があります。
- 生涯学習活動をより活発化させるために、身近な場所で学習できる環境づくりが必要です。

施策の方向

- 多様な学習ニーズに対応しつつ、現代的課題を踏まえた生涯学習を推進します。
- 地域指導者の養成に努めるほか、各種ボランティア活動に取り組みやすい環境づくりを行うなど、多様な学習活動を支援します。
- 生涯学習活動の拠点となる施設の充実を図るとともに、計画的に維持管理を行います。
- 学習機会の拡充や適時性のある学習情報提供に努めるとともに、学習相談体制の充実を図ります。
- 生涯学習のまちづくりを進めるため、関係各種団体の育成及び自主的活動に対する支援を行います。
- 学ぼうとする意欲に応えるとともに、知的好奇心を満たし、夢と希望を育む学びの実現に取り組めます。

指標

指標	指標の内容	基準値	今後の目標
生涯学習ボランティア登録数	地域の生涯学習指導者として登録しているボランティアの数(個人及び企業・団体)	88件 (平成26年度)	
生涯学習関係団体・サークルの登録数	公民館をはじめ、地域の生涯学習施設に登録のうえ、定期的に活動している団体の数	728団体 (平成26年度)	
自分を高めるために何かを勉強したり、研究している市民の割合	市民活動調査 「自分を高めるために何かを勉強したり、研究したりすること」	52.2% (平成25年度)	



施策目的 1 4

芸術や文化、歴史や伝統を知り親しむことで、郷土に愛着と誇りが持てるまちになる

郷土の歴史や文化を理解し、
地域の特色や伝統に根ざした新しい文化を
創造できるまちをめざします




現状と分析

- 高度で多様化した今日の社会に適応し順応していくためには、情操を養い、心や暮らしのなかにゆとりと潤いを持つことが必要です。しかし一方では、社会構造や経済機構の変化によるライフスタイルの変容のなかで、芸術や文化に対する市民のニーズも多様化してきており、今日まで受け継がれてきた伝統的な文化や歴史的な遺産が加速度的に失われてきています。
- 我が郷土館林は、利根川と渡良瀬川の二大河川に挟まれ、豊かな自然と肥沃な大地に恵まれ、古くから特色のある歴史や文化を育んできたことから、市内には多くの文化遺産が伝えられています。
- 私たちは、先人たちが伝え残してきた文化遺産を知り、先人たちの偉業を学び、地域に根ざした歴史や文化を理解し継承することで、郷土に愛着や誇りを持ち、自己を確立し、生きがいを持って生活するとともに、地域社会に貢献していかなければなりません。そのためには、郷土の歴史や文化、優れた芸術に触れ、親しみ、学び、活動できる環境づくりが必要です。

施策の方向

- 芸術活動や文化活動の拠点となる施設の充実を図ります。
- 芸術や文化に対する教養を高め、感受性を養うために、優れた芸術を鑑賞する機会を設けます。
- 情操を養い、心や生活にゆとりと潤いを生むために、芸術活動や文化活動の機会を提供するとともに、支援を行います。
- 彫刻を生かしたまちづくりなど、郷土の自然や歴史と調和した豊かな芸術環境や文化環境の創造に努めます。
- 館林の歩んできた歴史、館林で培われた伝統を示す証しである文化遺産を失うことなく次世代の人々に受け継ぐため、歴史的な遺産、伝統的な所産などの適切な保存や管理、修理や整備を行うとともに、後継者の育成や眠っている文化的資産の掘り起こしを行います。
- 次世代の人々に郷土の歴史や文化を正しく伝えるため、文化遺産の調査や研究を行い、その価値を引き出すとともに、その成果を市史や図書などにまとめ、地域に根ざした新しい文化創造の素材として幅広く活用されるように努めます。

指標

指標	指標の内容	基準値	今後の目標
文化施設における年間利用者数	文化会館、三の丸芸術ホール、第一資料館、第二資料館、田山花袋記念文学館の年間利用者数	223,620人 (平成26年度)	
芸術文化活動を行っている市民の割合	市民活動調査 「自分自身が芸術文化活動を行うこと」	21.6% (平成25年度)	
芸術や文化などに学ぶ意欲を持つ人々のために貢献する活動を行っている市民の割合	市民活動調査 「芸術、文化、教養など、学ぶ意欲や知的好奇心を持つ地域の人々のために貢献する活動」	17.1% (平成25年度)	



施策目的15

楽しんでスポーツができる環境があり、 スポーツが盛んなまちになる

いつでも、どこでも、だれでも
スポーツを楽しむことができ、競技力の高い選手が育つ
まちをめざします



現状と分析

- 近年、健康づくり、体力の維持や向上、仲間づくりなどを目的として、スポーツ活動に取り組む市民は多く、競技スポーツに加えて生涯スポーツに対するニーズも多様化しています。
- 生涯スポーツには気軽な社会参加を促す役割があり、スポーツを通じた仲間づくり、地域づくりへの期待が高まっています。生涯スポーツのまちづくりを進めるためには、だれもが年齢や体力に応じて適切なスポーツを選べることや身近な場所で活動できることが大切です。
- 競技スポーツは、個人や団体を問わず、幅広い年代層において活発な活動が展開されています。競技スポーツ選手や団体が競技力を高めたり、より高度な技能を習得するためのさまざまな支援が必要なほか、競技者人口を増やし、相互に切磋琢磨できるスポーツ環境づくりが必要です。
- 多くの市民がスポーツを楽しんだり、競技力を高めたりしていくために、安全と安心が確保された施設が求められています。

施策の方向

- スポーツや体力づくりに関する正しい知識を身につけるため、また、スポーツへ取り組むきっかけづくりのための学習情報や学習機会を提供します。
- 生涯スポーツに対する多様なニーズに応えるため、また、地域の生涯スポーツを促進するための環境づくりを進めます。
- 地域のスポーツ活動がより活発化するように、地域指導者の養成を図ります。
- 市民の主体的な活動を促進するために、各種スポーツ団体の自立を支援します。
- 団体や個人の競技力を高めるため、競技者人口の拡大や指導者の養成を図るほか、ジュニア世代から段階的に選手を育成する体制づくりを進めます。
- スポーツを行う個人や団体が、スポーツ施設を安全で安心して利用できるよう、施設の充実に努めるとともに、計画的に維持管理を行います。

指標

指標	指標の内容	基準値	今後の目標
週1回以上のスポーツ実施率	週に1回以上スポーツに取り組んでいる人の割合	45.9% (平成27年度)	
公園競技施設の利用者数	城沼総合体育館をはじめとする公園競技施設における年間の利用者数	395,898人 (平成26年度)	
スポーツに取り組む市民のために貢献する活動を行っている市民の割合	市民活動調査 「スポーツを楽しむ地域の人々や、競技スポーツに取り組む市民のために貢献する活動」	17.8% (平成25年度)	